

水戸城 二の丸角櫓



(表紙写真提供：水戸市)

水戸城は、那珂川と千波湖を天然の堀とする要害で、大規模な土塁とともに、城の西側の台地に五重の堀、東の低地に三重の堀をめぐらせる堅固な防衛線を築いた日本最大級の土造りの平山城です。起源となる館は、平安時代末から鎌倉時代初期に馬場氏の手により建てられ、後に江戸氏、佐竹氏の手を経て、慶長14（1609）年、水戸徳川家の居城となりました。

初代水戸藩主の頼房は、城下町の整備拡張のほか、二の丸に御殿を造営、三階櫓を建設しました。しかし明和元（1764）年の火災で焼失したため、後に、屋根を銅瓦葺に変え、天守らしく鯨を上げ、再建しました。再建三階櫓は外観三層・内部五階という大型の櫓で、石垣はないものの、一層目の下部を海鼠壁なまこで覆い、まるで石垣の上に建っているかのような姿をしていました。昭和20（1945）年に戦災で焼失するまで水戸のシンボルとして親しまれました。

平成21（2009）年、水戸市は、水戸城の城門と伝わる扉が坂東市の古刹で発見されたことを受け、学術的な調査・検討を始め、平成26（2014）年、水戸城復元事業を本格的にスタートさせました。復元に必要な瓦を市民などに購入してもらい費用の一部に充てる「一枚瓦城主」寄付金を活用しながら、令和2（2020）年2月には水戸城の正門「大手門」を復元、そして今年6月、水戸城二の丸角櫓及び土堀の復元工事が完了したことで復元事業は終了しました。現在、水戸城跡は当時にタイムスリップしたような感覚になる空間に生まれ変わっています。

水戸城跡二の丸展示館では、12月26日まで、NHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公渋沢栄一と、彼に大きな影響を与えた水戸の思想、人々との関わりを示すパネル展が開催されています。家族やごく親しい友人とともに水戸城跡を訪れ、歴史を感じながら、周辺地区の散策やパネル展の見学などをしてみてはいかがでしょうか。

